

# 大河津分水路改修の調査検討結果について

平成26年10月

北陸地方整備局信濃川河川事務所

# これまでの地元説明状況

4月1日 大河津分水路改修の調査検討着手

4月2日 大河津分水路改修に向けた調査等(10業務)の入札手続きを開始

5月12日～16日 地元説明等実施(大河津分水路調査検討の概要について)

- 平成26年5月12日 長岡市議会「長岡東西道路・大河津分水整備推進特別委員会」
- 平成26年5月12日 燕市議会「大河津分水大改造事業促進特別委員会」
- 平成26年5月14日 寺泊地域委員会
- 平成26年5月14日 地元説明会(長岡市藪田地区、新川口地区、茅ヶ原地区)
- 平成26年5月15日 寺泊地域 町内会長・区長会
- 平成26年5月16日 地元説明会(燕市渡部地区)

5月下旬～6月中旬 大河津分水路改修に向けた調査等契約

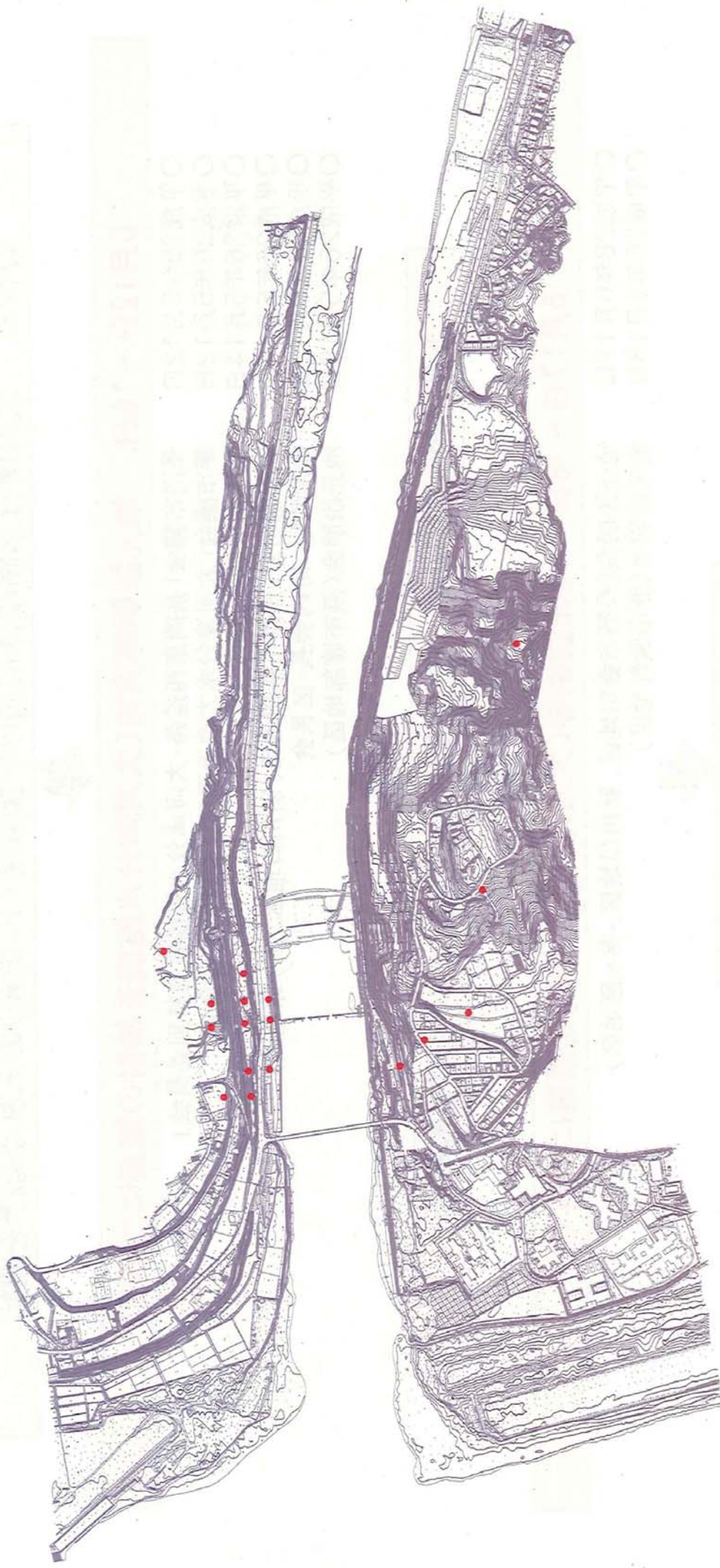
6月17日～18日 地元説明等(大河津分水路の現地調査について)

- 平成26年6月17日 地元説明会(長岡市藪田地区、新川口地区、茅ヶ原地区)
- 平成26年6月18日 地元説明会(燕市渡部地区)

調査検討の実施

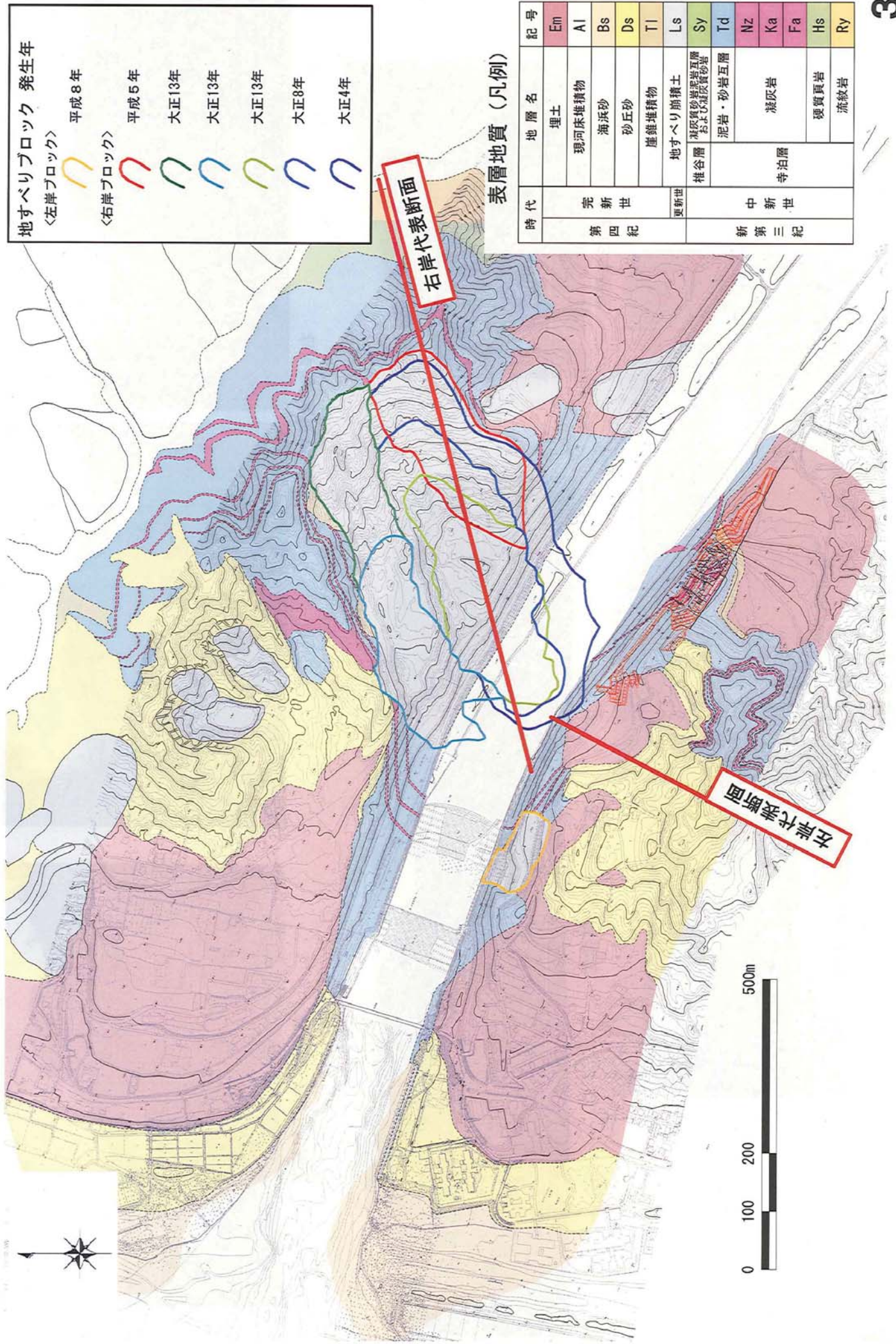
今回 地元説明等(大河津分水路の調査検討結果について)

# H26現地調査(測量結果及び地質調査位置)



●: H26ボーリング調査箇所

# 地層分布図、過去の地すべり発生位置

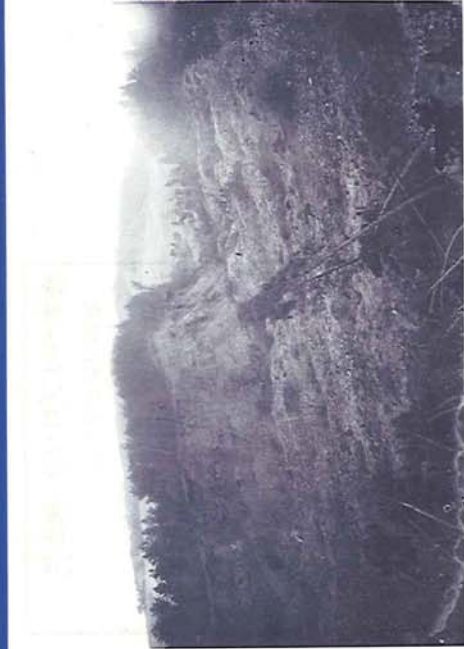


- 地すべりブロック 発生年
- 平成8年
  - 平成5年
  - 大正13年
  - 大正13年
  - 大正13年
  - 大正8年
  - 大正4年
- 〈左岸ブロック〉
- 〈右岸ブロック〉

表層地質 (凡例)

時代	記号	地層名
第四紀	Em	埋土
	Al	現河床堆積物
	Bs	海浜砂
	Ds	砂丘砂
更新世	Tl	土錐堆積物
	Ls	地すべり崩積土
新第三紀	Sy	凝灰砂岩層互層および凝灰質砂岩
	Td	泥岩・砂岩互層
	Nz	凝灰岩
	Ka	
	Fa	硬質頁岩
	Hs	硬質頁岩
	Ry	流紋岩
		寺泊層

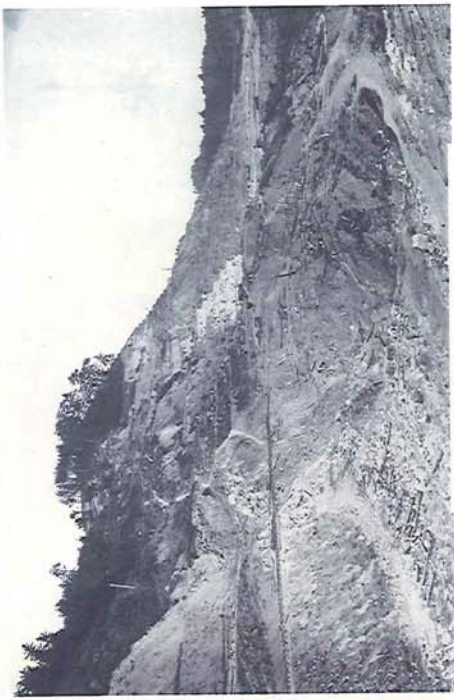
# 過去の地すべりによる被災状況



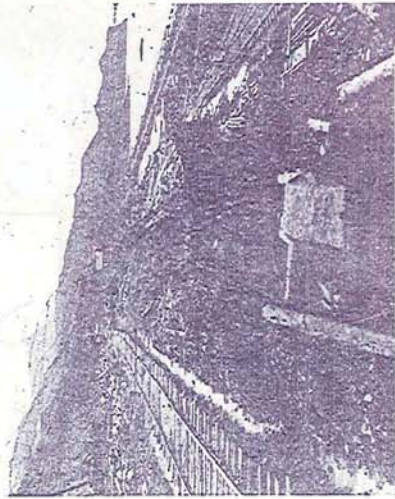
右岸側 大正13年発生



右岸側 大正4年発生



右岸側 大正8年発生



右岸側 大正15年発生



右岸側 平成5年発生



左岸側 平成8年発生

# 代表的地質・岩盤状況

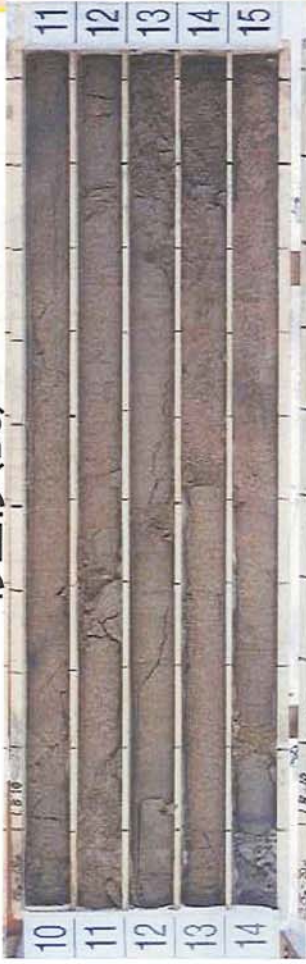
## 代表的な被覆層

### 埋土 (Em)



分水路施工時の掘削ズリを主体とし、風化岩や土砂が混在する地層

### 砂丘砂 (Ds)



粒のそろった陸上で堆積した砂層

## 代表的な岩盤 (砂岩泥岩互層)

### 強風化岩 (D級岩盤)



岩片は細かく全体に軟質化

### 弱風化岩盤 (CL級)



所々、礫状コアをはさむ。硬軟あり

### 新鮮岩 (CM級)



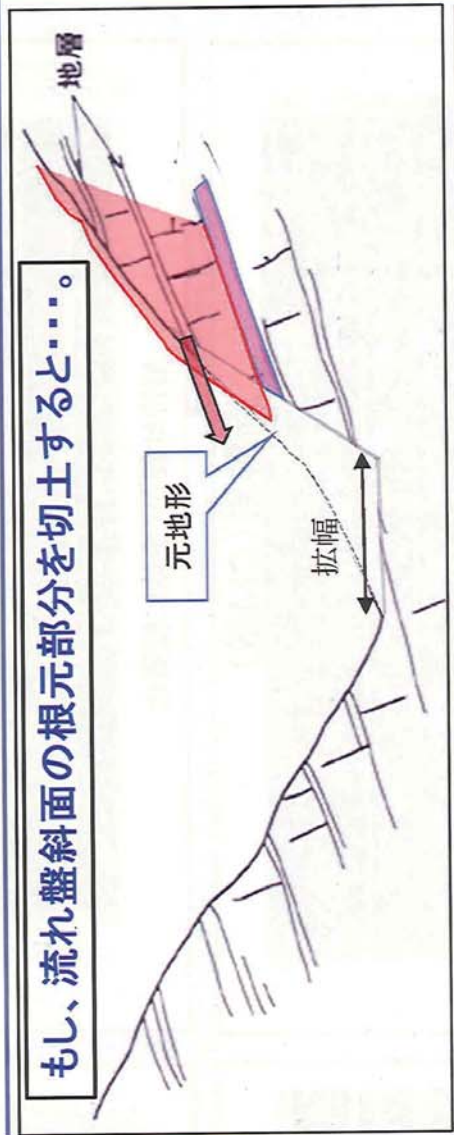
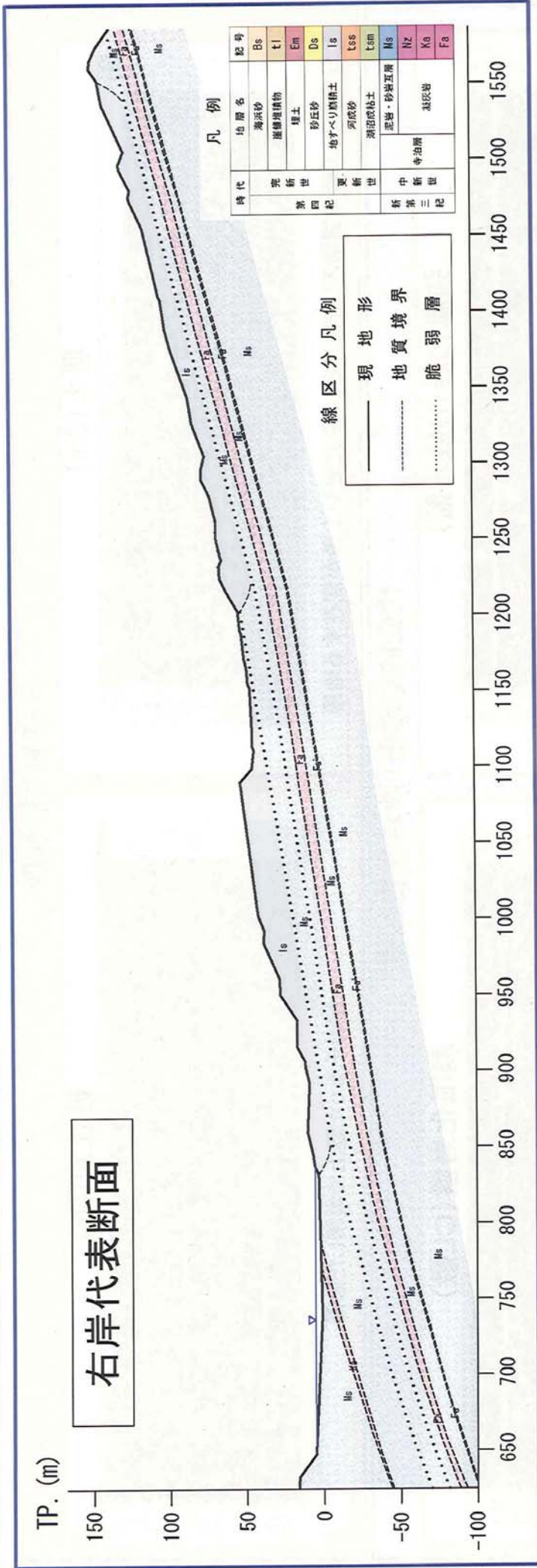
棒状コア主体、新鮮・堅硬

### すべり面



粘土状となっている (白矢印部分)

# 右岸の状況(代表断面)



流れ盤では、根元ですべりを抑えていた土塊が無くなるため、地層面に沿って地山本体が動く恐れがある。

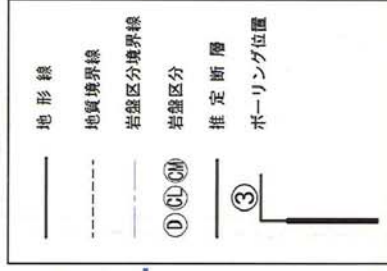
**流れ盤(ながればん)**とは、地層や断裂などの分離面が地表斜面に対して平行またはそれに近い関係にあること。規模の大きい地すべりや崩壊を起こしやすい。受け盤の対語。

(新版地学事典,地学団体研究会編,p948,1996)

# 左岸の状況(代表断面)

凡例

時代	地層名	記号	
第四紀	海浜砂	Bs	
	崖壁堆積物	tl	
	埋土	Em	
	砂丘砂	Ds	
更新世	地すべり崩積土	ls	
	河成砂	tss	
	湖沼成粘土	tsm	
新第三紀	泥岩・砂岩互層	Ms	
	寺泊層	Nz	
	凝灰岩		Ka
			Fa

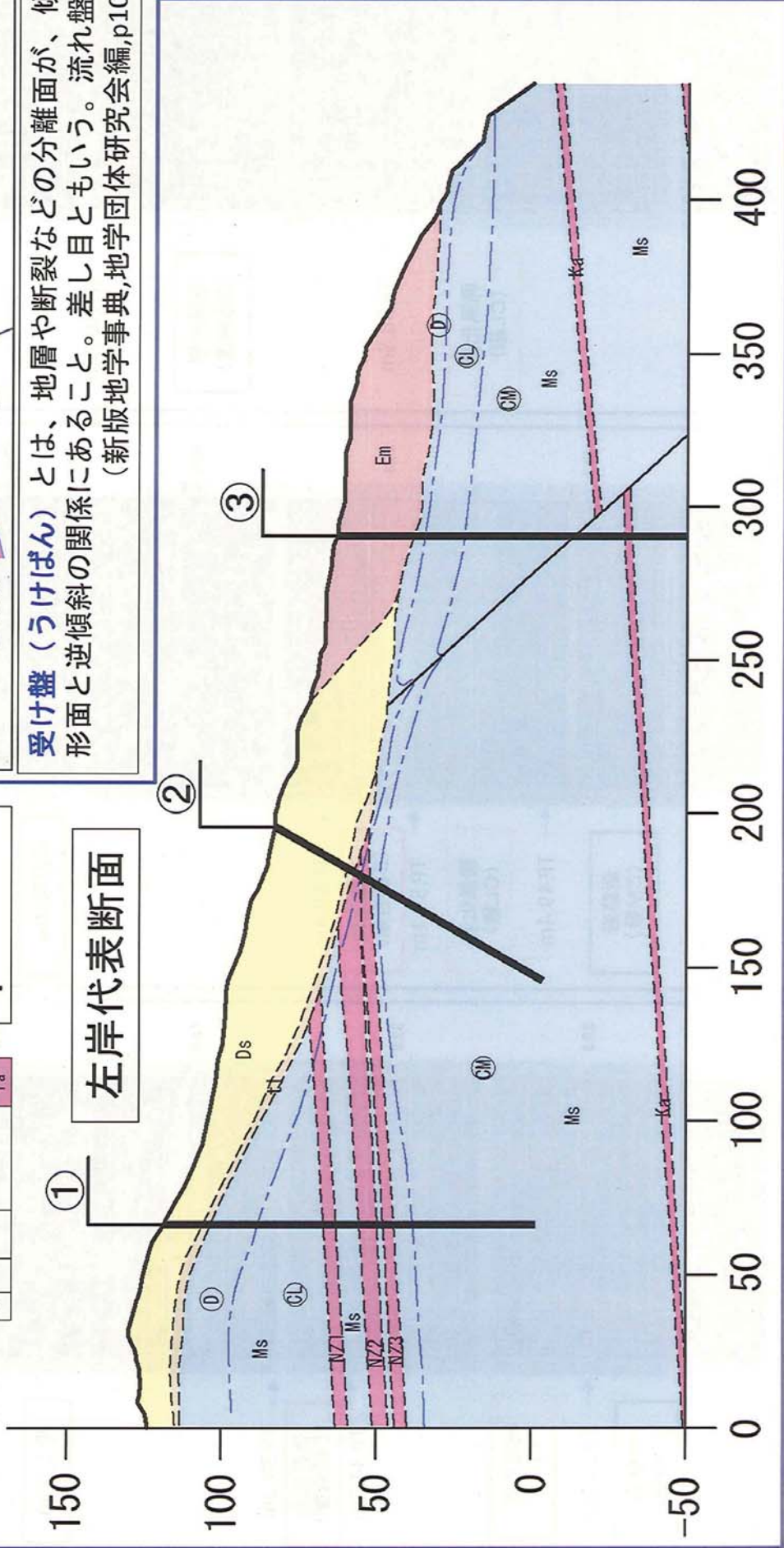


受け盤斜面とは



左岸側は地形の傾斜方向と地層の傾斜方向が逆方向で、地層に沿って川側に、すべりは生じにくい

TP. (m)

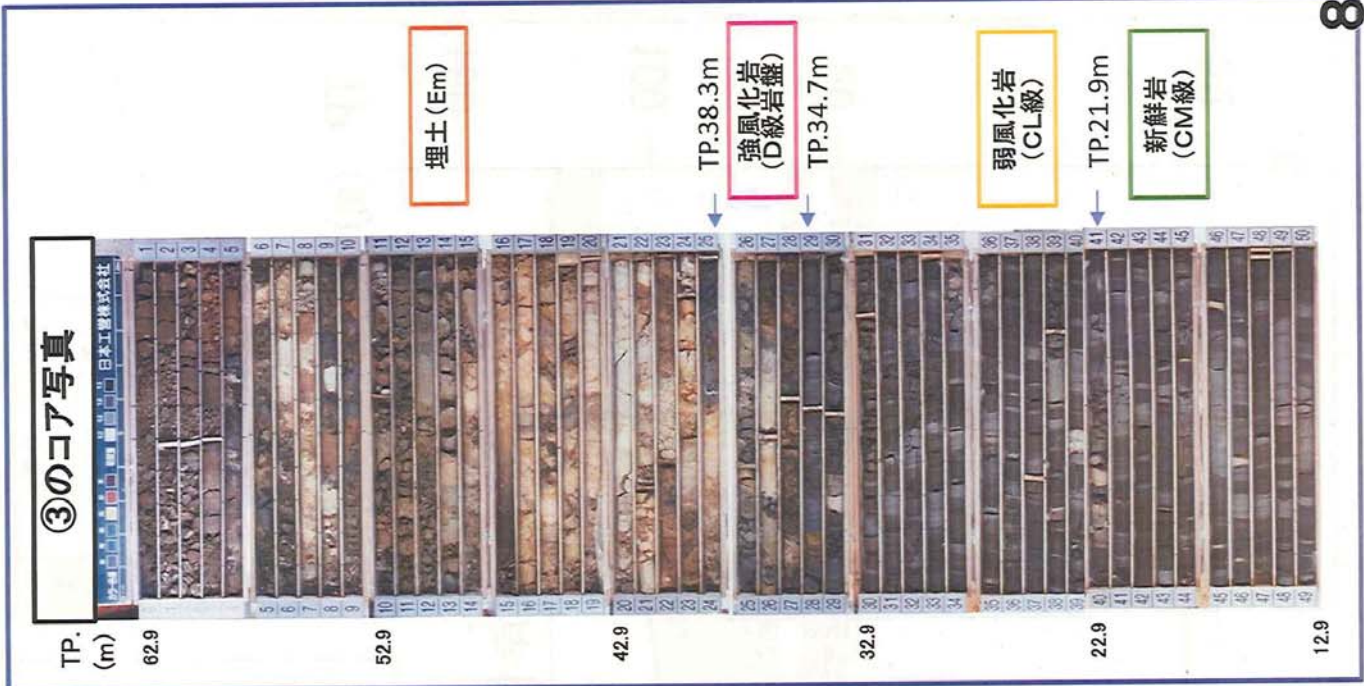
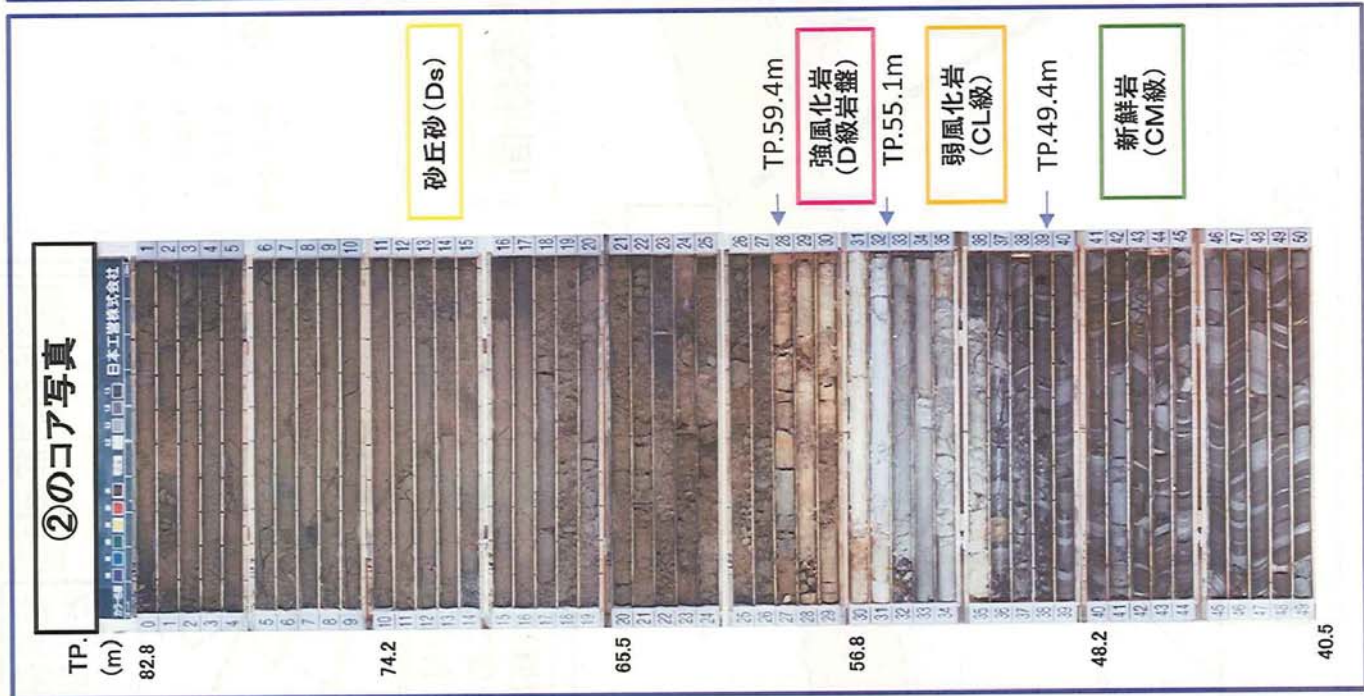
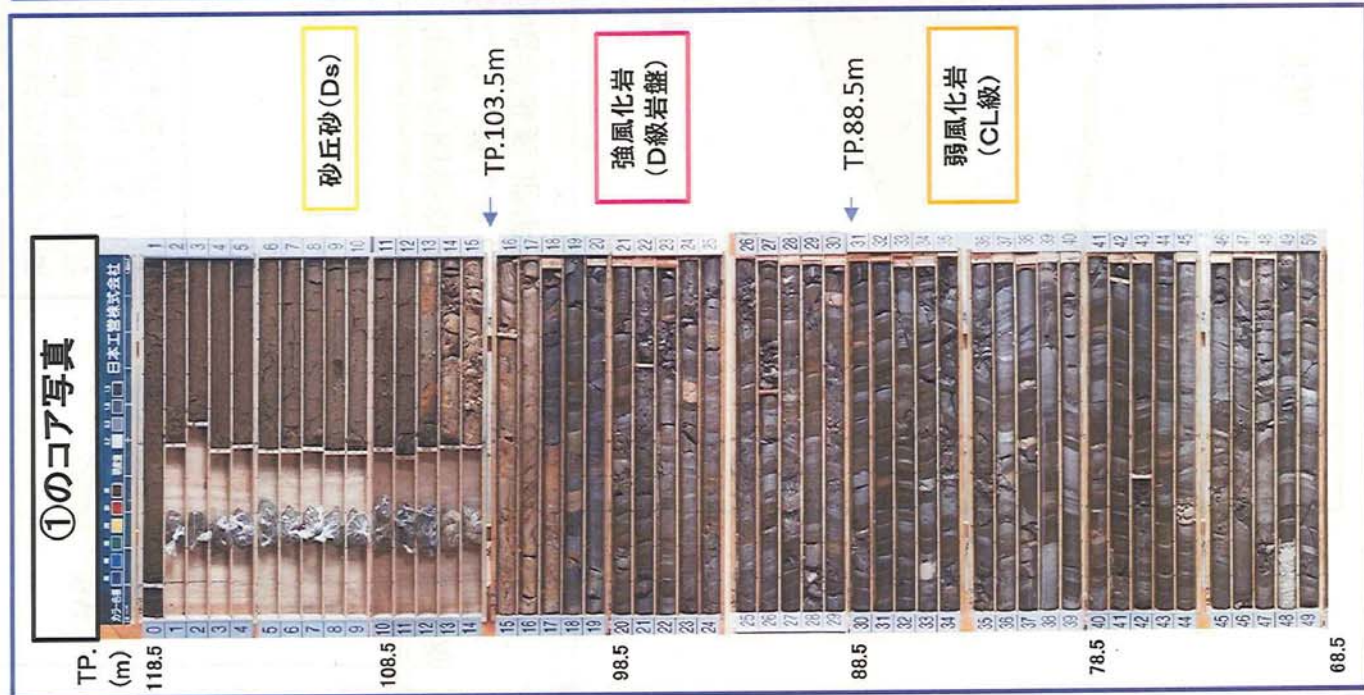


左岸代表断面

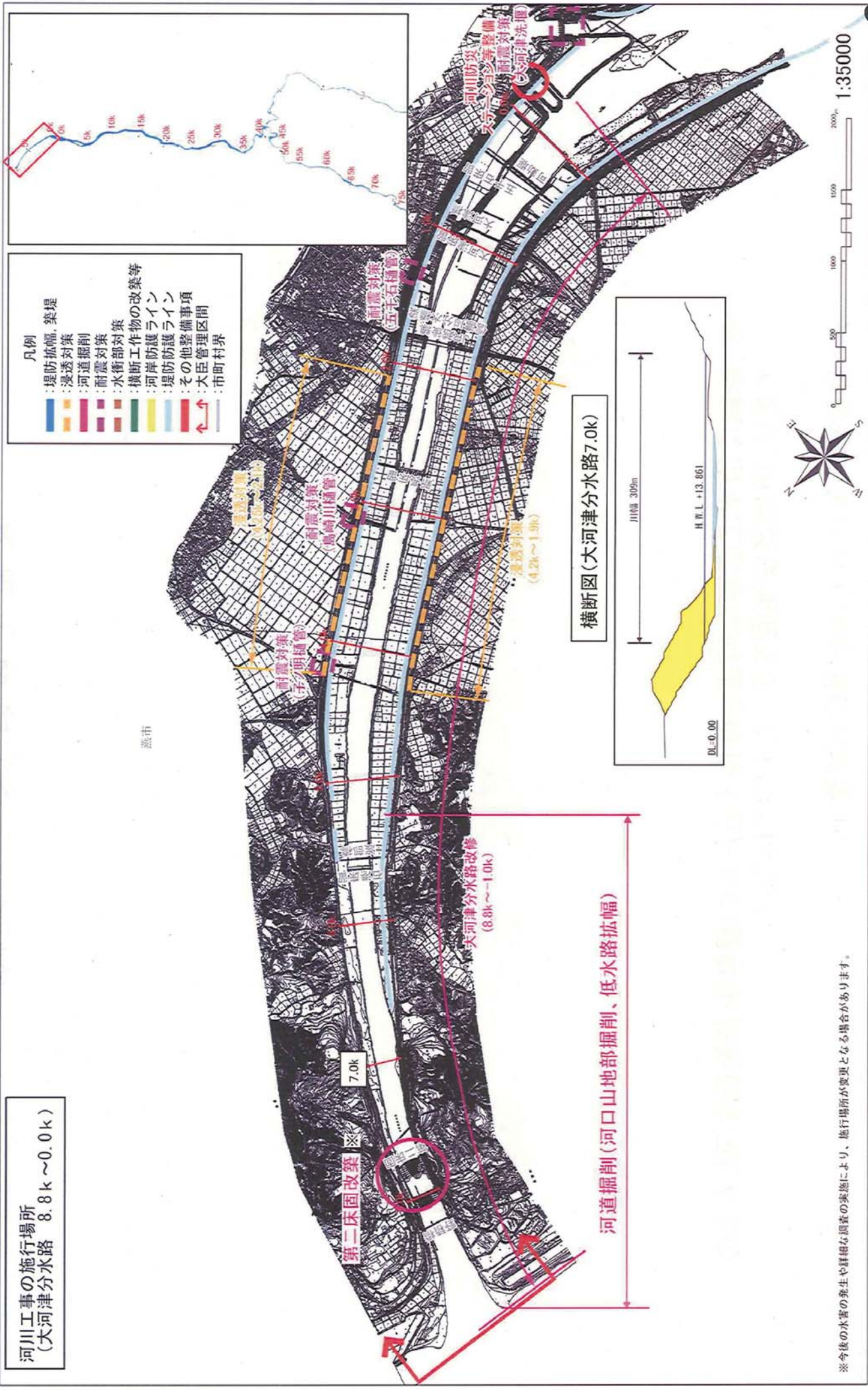
受け盤(うけばん)とは、地層や断層などの分離面が、傾斜する地形面と逆傾斜の関係にあること。差し目ともいう。流れ盤の対語。  
(新版地学事典,地学団体研究会編,p107,1996)



# 左岸の状況(コア状況)



# 信濃川水系河川整備計画附図変更原案に記載する内容

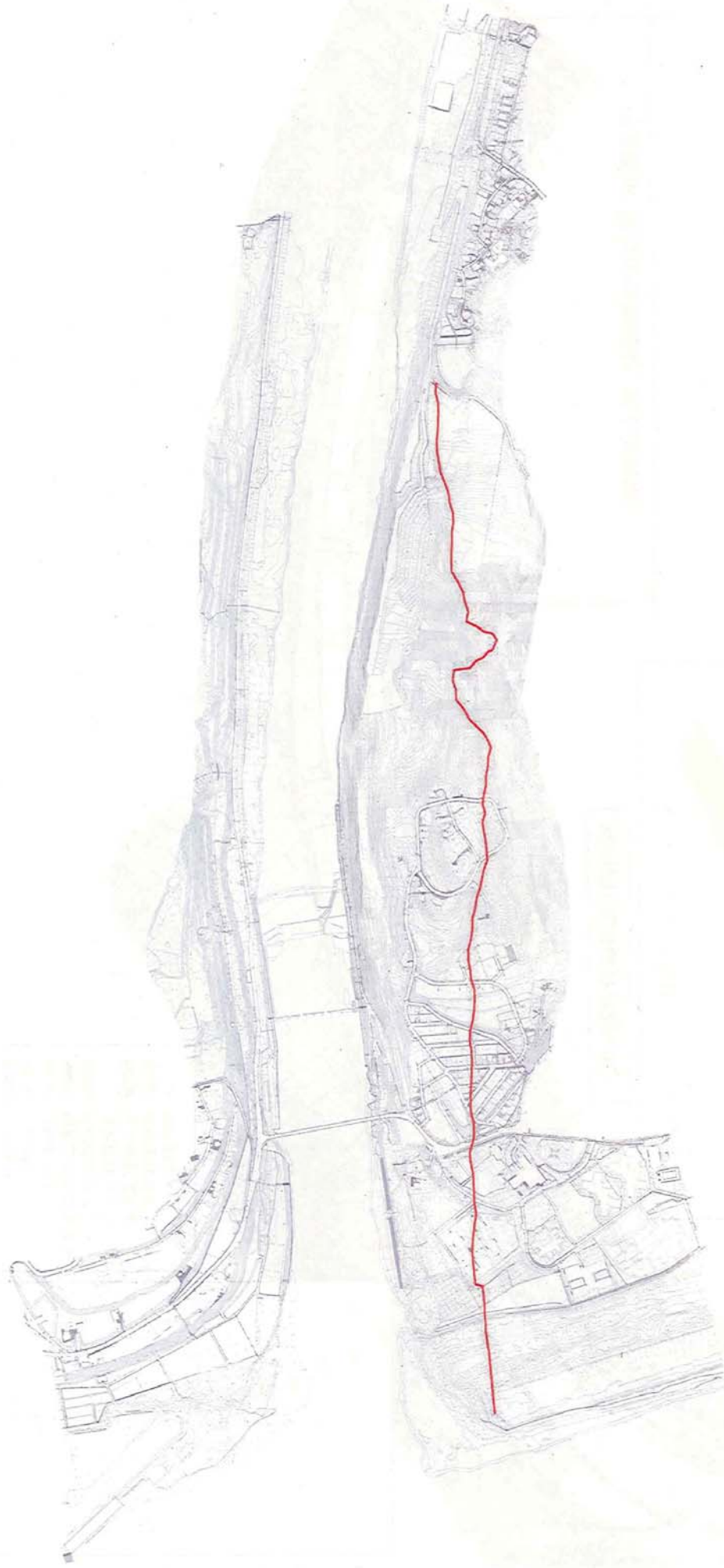


※今後の水害の発生や詳細な調査の実施により、施行場所が変更となる場合があります。

# 必要な河道を確保するための掘削影響範囲

全体平面図(案)

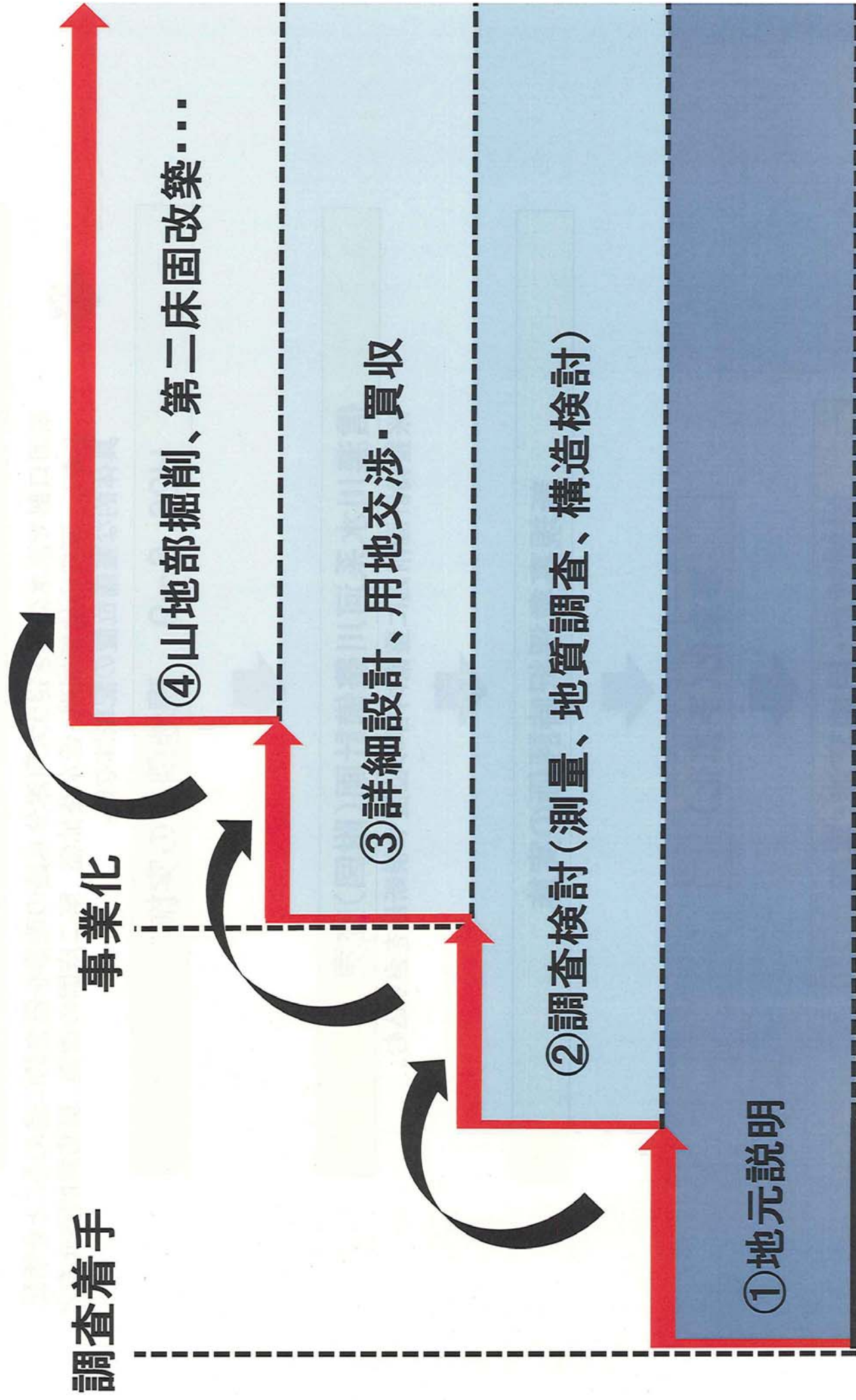
S=1:4000



※ 赤線は治水上必要な河道を確保するための掘削影響範囲を示したものであり、用地買収範囲を示したものではない。

※ 野積橋の架け替えは新潟県と調整中。

# 今後の事業展開イメージ図



## H26. 1 信濃川水系河川整備計画(大臣管理区間)策定

※河口部で洪水処理を担う大河津分水路の改修を優先的に進めることを明記  
しかし、河口山地部掘削、低水路拡幅、第二床固の改築、堤防質的強化など、  
具体的な整備位置の記載はない。

## H26. 6~9 現地調査の実施

## 信濃川水系河川整備計画(附図)変更

※整備計画附図に整備内容の位置や横断形を盛り込む。

## 新規事業採択時評価の実施

## 事業化(予算化)

## 詳細設計・用地交渉・買収

# 用地交渉・買収までの流れ

必要な河道を確保するために必要な掘削影響範囲の提示

(今回)

掘削影響範囲と関係する事業等の調整

事業化

事業で必要な用地買収範囲の確定

用地幅杭の設置(土地の買収区域の決定)

※立ち会いをお願いする  
場合があります。

用地調査等

用地測量 関係者立会  
物件調査 関係者立会

土地・物件調査確認、補償金算定

用地交渉・契約

随時  
地元へ説明